

協 議 会 議 事 概 要

第1項

協議会名	第3回 古川流域の総合的な治水対策協議会	
開催日時	平成31年3月26日(火) 14:30～	
開催場所	秋田市職員研修棟 2階 第1・2研修室	
出席者	協議会委員	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省 東北地方整備局 秋田河川国道事務所 副所長 齊藤 正道 (秋田河川国道事務所所長代理) ・秋田県 建設部 建設技監 佐藤 和義 ・秋田市 上下水道局 理事 金森 久幸 ・秋田市 建設部 部長 平山 義尚
	協議会作業部会	・11名
	関係者	・関係職員 4名
	事務局	・4名
傍聴者	報道関係者	・3社
	一般傍聴者	・7名
主な協議項目	<ul style="list-style-type: none"> ・各機関の緊急対策実施後の浸水シミュレーション結果 ・目標とする安全度(被害軽減目標) ・古川流域に適用可能な治水対策の候補と比較 ・今後の検討課題とスケジュール 	

協議項目	内容	
<p>・各機関の緊急対策実施後の浸水シミュレーション結果</p> <p>・目標とする安全度</p> <p>・古川流域に適用可能な治水対策の候補と比較</p> <p>・今後の検討課題とスケジュール</p> <p>・質疑</p>	<p>○作業部会</p> <p>○平山会長</p> <p>○金森委員</p> <p>○作業部会</p> <p>○作業部会</p>	<p>別紙資料により説明</p> <p>作業部会からの説明をまとめますと、ひとつは、各機関が今年度から緊急的な対策として実施した、もしくは実施している河道掘削などの結果を、浸水被害モデルとして作成したシミュレーションに取り込んだ場合、平成29年7月規模の洪水に対し、古川の上流部においては、浸水区域の減少が確認されました。</p> <p>また、ふたつめとしましては、今後の対策検討にあたり、この流域の被害軽減目標は、家屋の床上浸水被害を解消することです。</p> <p>みつめとして、設定した被害軽減目標に対し、この古川流域に適用可能な単独の対策案を候補として挙げ、それらをシミュレーションにより解析を行い、メリットやデメリット、整備費などの比較検討も行っていることです。</p> <p>それでは、作業部会からの説明に対し、質疑に入りたいと思います。</p> <p>緊急的とはいえ、今年度実施した、もしくは実施している対策の結果、古川の上流部ではあるものの、浸水区域の減少が図られたようですが、来年度は、この古川流域において、各機関が予定している事業や計画などはあるのか教えてください。</p> <p>現在、国では、古川上流部が合流する雄物川の樹木伐採と河道掘削を実施する工事の契約を締結し、作業中です。</p> <p>現地は、樹木伐採が進んでおり、今後、河道掘削を5月以降に着手する予定であります。</p> <p>県では、今年度、猿田川で州ざらいを実施予定であった2箇所のうち、古川との合流点付近については完了済みですが、上流区間では一部着手出来なかった区間があります。</p> <p>来年度は、引き続き、この未着手区間について州ざらいを実施してまいります。</p> <p>また、猿田川においても、来年度からは、従来の水位情報に加え、今年度新たに設置した危機管理型水位計の観測情報を県の河川砂防情報システムで提供したいと考えて</p>

(次項につづく)

協 議 項 目	内 容
	<p>おります。</p> <p>市では、この古川流域の治水対策を重点的に取り組むため、来年度から新たに、「古川流域治水対策事業」を立ち上げることであります。</p> <p>この中で、来年度は、古川の河道特性を把握するための測量調査や対策メニューの選定に向けた解析等設計業務を実施する予定としております。</p> <p>また、工事としては、今年度に引き続き、古川の河道掘削や護岸整備の実施を予定しております。</p> <p>今回設定した、目標の整備水準は、実際に被災をした平成29年7月豪雨と同じ量の雨が降った場合においても、床上浸水被害は発生させないということですが、道路冠水は発生することとなり、通行に支障が出ると思われま。</p> <p>避難誘導や冠水危険表示などソフト対策も重要になってくると思われまますが、いかがでしょうか。</p> <p>この古川流域は地形条件から、浸水被害の発生を完全に解消することは難しい地域であるため、一部の生活道路においては、道路冠水は、発生すると考えております。</p> <p>しかし、交通確保のためには、主要な幹線道路への冠水は、今後の検討の中で解消したいと考えております。</p> <p>また、道路冠水発生前の早めの避難誘導につなげるため、今年度設置を予定していた、古川への水位計設置工事については、入札不調等の理由により、遅れておりましたが、本日、契約したところであります。</p> <p>今後、速やかに工事を行い、この水位計の情報を発信することで、道路冠水発生前の早めの避難誘導につなげたいと考えております。</p> <p>ケース8と9は、どちらも排水機場を整備する案であり、より安価な案となっているようだが、排水先は雄物川と猿田川と違うものの、どちらも排水箇所が2カ所となっています。</p> <p>排水機場は、1基あたりの整備費用もかかることから、1カ所にまとめた方がさらに安価にできるのではないのでしょうか。</p> <p>排水箇所を1カ所とすると、広い範囲の水を集めて、排水することとなり、その施設規模が大きくなってしまことから、古川流域につきましては、上流部と下流部に分けた方が経済的という試算結果になっております。</p>

(次項につづく)

協議項目	内容
○金森委員	概算事業費の比較をしているようなので、どのくらい経済的か、教えていただけないでしょうか。
○作業部会	<p>概算額ではありますが、施設規模が変わることとなり、排水機場2箇所の整備に対し、1箇所の整備は、約1.1倍となります。</p> <p>したがって、現時点では、排水機場を2箇所整備した方が、より効果的で効率的な整備手法ではないかと考えております。</p>
○佐藤委員	今回、提示された治水対策の9案では、設定した床上浸水被害の解消という被害軽減目標の達成は、なかなか難しい結果のようであり、比較案には、別途対応との記載もあるが、目標達成のため、この対策案以外の案をこれから検討していくのでしょうか。
○作業部会	<p>今回、お示しした対策案は、この古川流域に適用可能な、ハード整備として考えうる案を単独で検討した結果であります。</p> <p>これらの案、単独では、先の説明にもありましたが、設定した被害軽減目標の達成が可能な案もあれば、達成できない案もあり、また、整備費が高いことや対策期間が長くなるなど、それぞれに、メリットとデメリットもあります。</p> <p>したがって、この流域において適用可能な案として提示したこの対策案をベースとし、被害軽減目標を達成し、かつ、より効果的で効率的な整備メニューを策定するために、今後、提示した対策案に、他の対策を組み合わせた複合的な案を検討していかなければならないと考えております。</p>
○佐藤委員	提示した対策案に、ほかの対策を組み合わせるとのことですが、組み合わせとして現時点で考えている案はあるのでしょうか。
○作業部会	<p>組み合わせる対策については、排水施設や貯留施設を局所的に設置するなどのほか、様々な対策が考えられると思います。</p> <p>より効果的で効率的、かつ、被害軽減目標が早期に達成できますよう対策案について、来年度、本市が予定している委託業務において、検討を進めていきたいと考えております。</p>
○佐藤委員	被害軽減目標を早期に達成可能な対策案の検討は、これ

(次項につづく)

協 議 項 目	内 容
	<p>からということですが、地域住民のためには、よりスピード感を持った検討が必要と考えます。できる限り早く検討を進め、次回の協議会までには、この古川流域に適した、複合的な治水対策案を示してください。</p> <p>もう一点、8と9の案は3つの樋門と2つのポンプの組み合わせですが、運用面はどうなるのでしょうか。少し複雑になるかと気になるのですが、作業部会で検討をお願いしたいと思います。</p> <p>○作業部会 次回の協議会には、提示できるようにしたいと思います。</p> <p>○齊藤委員 この古川流域に適用可能な複合的な治水対策案を次回の協議会までに検討することは理解しました。 佐藤委員からも話があったように、地域住民のことを考えると、よりスピード感を持って検討を進めてもらいたいです。 これまでは、ハード対策の話だけを検討してきており、先ほどの説明では、今後の進め方として、ソフト対策の検討も進めるようですが、具体的には、どんな検討をしようとしているのか教えてください。</p> <p>○作業部会 秋田市でのソフト対策は、これまで、古川流域に限ったことではありませんが、自主防災リーダー研修会の開催や災害避難路マップ作成など、自主防災組織の結成促進とその育成に努めてきております。 また、防災メールや広報車などによる周知や緊急告知ラジオを貸与するなど、災害情報のすみやかな伝達についても、進めてきております。 今後、さらに、秋田市全体で検討を進めていく必要があると考えております。</p> <p>○平山会長 一般的には、ソフト対策として、事務局より説明のあった対策が考えられます。 今後検討を進めるソフト対策として、作業部会で想定しているものがあれば、伺いたと思います。 国、県、市の順番で説明をお願いします。</p> <p>○作業部会 国では、雄物川の水位情報や河川の状況映像をHPやテレビを活用して情報発信したいと思っており、既にNHKや民放各社と画像提供の協定を結んでおりますが、H31年度はケーブルテレビとも連携していくことを考えています。</p>

(次項につづく)

協 議 項 目	内 容
○作業部会	<p>県では、国の取り組みと同様に、画像情報提供の取り組みを考えております。具体的には、猿田川仁井田水位観測所の水位情報と併せて、観測所付近の河川状況を画像情報として、県の河川砂防情報システムを通じて、一般向けに公表し、細やかな情報提供を行うことにより、ソフト対策の進展をはかりたいと考えております。</p>
○作業部会	<p>これまで秋田市で実施してきているソフト対策のほか、今後浸水被害家屋を発生させないために様々な検討を進めていく必要があると考えています。</p>
○平山会長	<p>この協議会は、総合的な治水対策を検討していくことが主旨であり、ハード対策の期間よりも早期に実現可能な対策案として、この流域において適用可能なソフト対策の検討も必要であると考えます。</p> <p>次回の協議会まで、作業部会において、今回のハード対策と同様、この古川流域に適用可能なソフト対策についても、併せて検討し、提示することをお願いいたします。</p>
○作業部会	<p>次回の協議会には、ソフト対策についても、検討した結果を提示したいと考えています。</p>
○平山会長	<p>古川流域の治水対策の検討に当たっては、今回も含め、3回の協議を行ったところであり、これまでの各委員の建設的で活発なご議論、作業部会からは丁寧な資料の説明をいただきましてお礼を申し上げます。</p> <p>本日の協議会はスケジュール的な話もありました。今年の12月までに、より効果的で効率的な複合的な対策メニューの策定に向けて検討していくことが確認されました。</p> <p>また、ハード対策中心に今まで議論してきた中で、より早期に実現可能なソフト対策についても併せて検討し、次回の協議会で提示すると確認できました。</p> <p>今後、総合的な治水対策を取りまとめ、各機関の役割分担のもと、段階的な整備スケジュールに基づき、一日でも早く対策事業を実施され、当地域の床上浸水の解消が図られることによって地域の安全・安心を確保できるよう、協議会の議論をこれまで以上にスピード感を持って進めていくことが求められていると考えています。</p> <p>各委員の皆様には、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>最後に、古川流域の総合的な治水対策の検討に当たっては、協議会、作業部会と動いていますが、地域の方々に</p>

(次項につづく)

協 議 項 目	内 容
	<p>対しては、町内会への意見交換会等での情報提供に努めてきたところであります。最終的な最適な治水対策の取りまとめ設計に当たっては、これまで同様に情報提供に務めながら進めていくことが必要と考えておりますのでよろしくお願いいたします。以上です。</p>



協議会開催状況